

Youth Hostel Pick up

子育てママ・パパたちが集い、語らう 新時代のユースゲストハウス

北軽井沢ブルーベリーユースゲストハウス



地球を体験。ファミリーで寛げる宿 北軽井沢ブルーベリー ユースゲストハウス

群馬県の吾妻(あがつま)エリア、嬭恋村にあるユースホテル。北陸新幹線・しなの鉄道線の軽井沢駅より、草軽交通バス・北軽井沢行き、または草津温泉行きに乗り、北軽井沢バス停で下車(送迎あり)。車の場合は上信越自動車道・碓氷軽井沢IC、または佐久ICから約60分。

〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村鎌原 1506-12
☎0279-84-3338 <https://jyh.jp/info.php?jyhno=2313>



全室バストイレ付き個室の北軽井沢ブルーベリーユースゲストハウス。館内は「ユースホテルのイメージ」を良い意味で裏切ってくれる。



客室は2人〜5人部屋までと、ファミリーやグループでの利用にピッタリ。一通りのアメニティもそろっているので、少ない荷物で利用できるのもうれしい。



お話を伺った、マネージャーの佐藤智さん(左)と妻の智子さん(右)。

勇壮な浅間山の北麓 高原の森に佇むユースゲストハウス

標高2,568mを数える浅間山(あさまやま)。長野県と群馬県にまたがるこの山は、数十万年もの昔から火山活動を繰り返す、国内有数の活火山として知られる。その北の麓、群馬県側の嬭恋(つまごい)村と長野原(ながのはら)町にまたがるのが、今回訪れる「北軽井沢」と呼ばれるエリアだ。かつて流出した溶岩の跡を間近に眺められる鬼押し出しや、火山活動によって形成された名瀑・白糸の滝など、自然の芸術ともいえる多様な地形が広がり、2016年には「浅間山北麓ジオパーク」の名で日本ジオパークに認定された。北軽井沢は、標高約1,200mと冷涼で過ごしやすい高原地帯。清冽な水と寒暖差を利用したキャベツやレタ

スなど高原野菜の栽培や、穏やかな自然の中で育った牛たちがもたらしてくれる牛乳など乳製品の生産が盛んに行われている。また、浅間山南麓の長野県軽井沢町と同様、避暑地として古くから発展してきたエリアでもある。そんな北軽井沢の、木漏れ日が注ぐ森の中を進んでいくと、鮮やかなブルーの外壁が映える「北軽井沢ブルーベリーユースゲストハウス」にたどり着く。以前はペンションだったこの建物のオーナーが、周辺に自生する通称・浅間ベリー(クロマメノキの実)からつけた「ブルーベリー」の名を引き継いでいるという。「変えてもよかったんですが、前のオーナーの思い入れを残したかったですよ」。そう微笑むマネージャーの佐藤智(さとら・さとし)さんに、旅への思いや宿の魅力について伺った。

故郷・佐渡で偶然見つけた 人と情報が行き交うユースホテル

日本海に浮かぶ佐渡島で生まれ育った佐藤さん。好奇心にあふれた少年時代は、島じゅうを自転車で周遊していた。そんなある日、見慣れないブルーのマークの看板がついた建物を目にしたという。「佐渡では見たことのなかった、蒼い目をした外国の人たちが、その建物に入っていきのを見たんです。あれはなんだろう？と興味を引かれました」。その建物は、当時島内に7軒あったユースホテルのひとつ、外海府ユースホテル(佐渡市)。ペアレントの招きで中に入ってみると、そこには見たことのない光景が広がっていた。

「自転車やバイクで全国を旅する若者から、一人旅の小学生まで、さまざまな旅人がいました。佐渡ではラジオとテレビだけが島の外のことを知る手段でしたが、ユースホテルは、今のインターネットのような、情報の集まる場所だったんです」。高校生になると、島の外へ自ら旅に出るようになった。もちろん滞在先はユースホテル。行った先では、佐藤さんと同じ歴史好きも多く、城や忍者、武将など、さまざまな「専門分野」を持った面々と話に花を咲かせたという。「ユースホテルの一番良いところですよ。年齢や世代、身分などの分け隔てがなく、みんなと交流しあえる。それに、一人旅をしていると、助けてくれる大人がたくさんいました。駅のベンチで眠っていると、駅長さんがストーブにあたらせてくれて、おでんをご馳走してくれたこともありましたよ」。

青少年活動と震災ボランティアを経験し「人情と出会う空間」を目指して開業

社会に出てからも旅への情熱は衰えず、長期の休みを取っては世界中を放浪した佐藤さんだったが、やがて青少年活動に取り組むようになった。

「昔、旅先で大人たちにかわいがってもらったことを思い返して、「今こそ恩返しをしなきゃ」という気持ちが湧いたんです」

肢体や視覚に障がいのある人と登山をしたり、手話サークルと一緒にイベントを催すなど、多様な活動に参画。北海道・釧路にあった旧・星のまきばユース Hostel では、2年間ボランティアスタッフを務めた。その後東京で暮らしていた折に発生したのが、1995年の阪神・淡路大震災。居ても立ってもいられず、ボランティアとして神戸へ駆け付けた。

「被災地の力になれた実感はなかったんですが、神戸の人たちが自分の食べるおにぎりを私にごちそうしようとしてくれたり、活動を通してたくさんの人情に触れて帰ってきました」

青少年がたくさんの人とふれあって、人情と出会う空間を提供したい。そんな気持ちに火が付き、自分の宿をつくることを決意した。

「東京で知り合い結婚した妻も『いいんじゃない』と言ってくれて、全国各地の物件を探し始めました。そこから1カ月、たまたま見つけた中古のペンションがここだったんです。かつて旅先で知り合った人たちの応援もあって、あれよあれよという間にオープン。旅好きの人は旅の話が好きでしょう。宿のオーナーがそのネタをたくさん持っているから、そこが強みになりましたね(笑)。あとは口コミで多くの人を訪れるようになって、間もなく開業30年を迎えます」



ユース Hostel よりプライベートな空間が重視されたユースゲストハウスだが、ラウンジスペースはゲストが思い思いに過ごす「ユース Hostel らしい」風景になる。



豪華すぎず、質素すぎない。心地よさと自由さのバランスが「ちょうどいい宿」が、北軽井沢にあった。



「食べる直前に精米する」というこだわりのお米と、嬌恋の高原野菜にマネージャーこだわりのメインディッシュが並ぶ夕食はボリューム満点。



高原の朝を彩る朝食も、野菜がたっぷり使われたヘルシーなもの。「一度訪れるとリピーターになってしまう宿」。そう言われる所以は食事にあるのかもしれない。

コンセプトは「ファミリー大歓迎」子育て世代に優しい宿

北軽井沢ブルーベリーユースゲストハウスの特徴は、なんといっても「ファミリー大歓迎」という点だ。コロナ禍に、感染対策として貸切利用をする子ども連れが訪れるようになったことをきっかけに、ファミリーに優しい設備・サービスを拡充してきた。冷暖房完備でユニットバスの付いた客室をはじめ、約1,200冊の絵本・児童書、1,000本近いDVDソフトを用意しているほか、敷地内にたくさんの屋外遊具もある。親子で楽しめる手持ち花火も無料だ。

「私も試行錯誤しながら子育てをしたので、一生懸命育児をしているお母さん、お父さんの力になりたいんです。お客さま自身もわかっていない『これがやりたかった!』を提供できたらいいですね。あとは、未就学児の添い寝のほか、幼児食も無料。子育てにはお金がかかりますし、できるだけリーズナブルでお子さまにも喜んでもらえる宿を目指しています」

ファミリーが集まるこの宿には、佐藤さんが若き日にユース Hostel で経験した、オフラインの「インターネット」としての機能が生まれているという。

「知らない家族同士がここに来て、一緒に花火をやったり、わが家の犬とふれあったりしているうちに仲良くなって、悩みを語り合う。それが高じて、同じメンバーで1年後に遊びにいらっしやったりして、リピーターも増えています。もしかしたら、こういう人のつながりが、新しい時代のユース Hostel 像になっていくのかなと思っています」

A D cafe



森に佇む、木の温もりあふれるカフェレストラン。ドリンクはもちろん、サンドイッチやスイーツなどのメニューも充実している。天気の良い日には、テラスでゆったり過ごそう。

■ 嬌恋村 1053-566
☎0279-84-1083

B 軽井沢おもちゃ王国



見て、触れて、体験できる、おもちゃのテーマパーク。12館からなる「おもちゃのお部屋」のほか、アトラクションにアスレチック、溪流釣りなど、家族みんなで一日中楽しめる。

■ 嬌恋村大前細原 2277
☎0279-86-3515

C 浅間記念館(二輪車展示館)



1950年代に北軽井沢で開催された「浅間火山レース」を記念した、日本モーターサイクルの歴史を伝える二輪車ミュージアム。往年の名車がずらりと並ぶ館内は、まさに圧巻だ。

■ 長野原町北軽井沢 2032-23
☎0279-86-3000



北軽井沢ってこんなところ!

嬌恋村と長野原町にまたがる北軽井沢エリアは、明治時代から開墾が始まった。1918(大正7)年には草軽軽便鉄道が開通。地蔵川と呼ばれていたこのエリアは避暑地・別荘地として発展し、昭和に入り、隣接する軽井沢にちなんで「北軽井沢」の名が定着した。このページでは、リゾートとして100年を超える歴史を持ち、浅間山がもたらす自然の恵みを楽しめるこの地域ならではの観光スポットをご紹介します。ぜひ、北軽井沢ブルーベリーユースゲストハウスを拠点に訪れてみよう。

北軽井沢おすすめSPOT

D 鬼押し園



1783年の浅間山噴火によって流れ出した溶岩が冷え固まってできた「鬼押し」。浅間山をバックにした、大自然が織りなす壮大なスケールの「溶岩の芸術」は一見の価値ありだ。

■ 嬌恋村 1053
☎0279-86-4141

E 浅間山北麓ビジターセンター



浅間山の成り立ちや植生をジオラマなどで解説している学習施設。豊富な展示で浅間山の自然を学んだら、施設直結の遊歩道「ヴォルケーノウォーク」を散策するのがおすすめだ。

■ 長野原町北軽井沢
☎0279-86-3000

F やんば天明泥流ミュージアム



八ッ場(やんば)ダム建設時に発掘された、1783年の「天明泥流」で埋没した村落。その遺物をもとにした、館内の貴重な展示や映像を通して、当時の人々の暮らしを知ろう。

■ 長野原町大字林 1464-3
☎0279-82-5150



抽選で **ファミリーご宿泊券(1泊2日)1名様**にプレゼント!

ご応募は日本ユース Hostel 協会ホームページの専用お申し込みフォームから!

<https://jyh.jp/hm>

応募〆切:2025年12月末日

※当選者にはご応募時にご登録いただいたメールアドレス宛にご連絡いたします。@jyh.jpからのメールが受信できるように設定をお願いいたします。

